

三つのコスモス

神の支配する世界は、古来、宇宙（マクロ）と人間（ミクロ）とを結びつける「コスモス」（秩序）と考えられた。〈マクローミクロ〉の中間に、人間が集まって住む「メゾコスモス」が成立する。失われた三つの秩序のつながりを、どう回復するかを考える。

I コスモロジーの変容

○古代：地球を中心とし、恒星天を最外周とする天球＝閉じた世界

→神の与えた秩序が、マクロ（宇宙）とミクロ（人間）を支配する

○近代：地球中心の古代的宇宙観は書き換えられ、無限宇宙が出現する

→〈マクローミクロ〉を結ぶコスモロジーの崩壊

○マクロとミクロの〈中間〉——メゾコスモスとしての「都市」

→都市の意味：「個人的なものと集団的なもの、物質的なものと精神的なもの、感覚的なものと理性的なもの、現在と過去、自然的なものと文化的なもの等々の区別が無効になるのである」（A. ベルク『都市のコスモロジー』講談社現代新書、1993年、12頁）

◎課題——三つのコスモスをいかに結びつけるか？

II 対話の空間へ

三つのコスモスを〈対話の空間〉として考える。

・マイクロコスモス：

内なる対話（私－汝）に、第三者（彼）の声が加わる〈自己内対話〉。

・メゾコスモス：

個と個の〈私－汝〉関係（二人対話）に〈彼〉が介入する「三人対話」。〈神〉を共有する共同社会として閉じられる。

・マクロコスモス：

地球大の人類社会に向けてメゾコスモスを開く「間風土的対話」の実践へ。

[概要]

テーマは「コスモロジー再考」。環境問題を考える前提としたミクロ（個人）・メゾ（地域）・マクロ（地球）という三つのスケールは、そのまま三つの「コスモス」（宇宙、秩序）を表す。環境問題の解決は、三つのコスモスを関連づける努力なしにはありえない。

I コスモロジーの変容

○コスモロジー（宇宙論）の意味

古代ギリシア（ピタゴラス）以来、宇宙全体を「数」の支配する「秩序」と考える宇宙観が支配。有限な全体を神が支配する「閉じた世界」とみなし、その秩序が個々の人間に内在するとして、〈マクローミクロ〉の対比が考えられた。極大の宇宙と極小の人間との中間に、人間がつくる社会としての「メゾコスモス」が成立する。Cf. ベルク『都市のコスモロジー』

メゾコスモスを「人間環境」として、それより外のマクロ、内のミクロと結ぶ三層構造と考えるのが、風土学の「環境」概念。三つの層は、単なる空間の規模の違いを意味するのではなく、それぞれが「コスモス」として自立すると同時に、たがいにつながり合う〈全体〉を構成しているということである。人は秩序ある世界（コスモス）に生きる。宇宙論的秩序の極大（マクロ）と極小（ミクロ）との中間に、人と人とがかかわり合う〈中間〉（メゾ）の世界がある。

・ミクロコスモス：人間は、一つの〈全体〉であると同時に、部分的に〈小宇宙〉を内蔵する。科学的見地から、身体を〈全体〉と見た場合、〈部分〉である細胞レベルでも、「内部環境」（クロード・ベルナール）と称される自己完結的な秩序が存在する。私の環境論では、ミクロコスモスを〈個人の身体〉という最小規模の空間として扱っている。

・メゾコスモス：複数の個によってつくられる集合的な秩序。人と人、人と自然の〈あいだ〉が開かれた、風土としての世界。Ex. 都市。神（創造者）の支配する世界には、宇宙と交流する中心軸が立てられ、超越への志向が、地上に生きる人と人、人と自然を結びつける。都市の構造——「都」＋「市」（宗教と経済）。

・マクロコスモス：古代において、極大の宇宙は、人知の及ばない神の領域。神が住まうことによって、マクロはメゾ・ミクロにつうじる。近代の科学革命は、「閉じた世界から無限宇宙へ」（コイレ）の劇的転回をもたらした。科学革命により、それ以前のコスモロジーは崩壊した。

コスモロジーは、絶対者の支配するコスモスの論理。〈神〉によって成立し、〈神〉に支配される世界の秩序を表す。神なき無限宇宙に、コスモロジーは復活しうるか？

○コスモスの再生へ

メゾコスモスとしての風土を中心に考えるのが、風土学の立場。

Cf. オギュスタン・ベルク『都市のコスモロジー』——「神田川」の例から、「個人的なも

のと集団的なもの、物質的なものと精神的なもの、感覚的なものと理性的なもの、現在と過去、自然的なものと文化的なもの等々」にまたがる都市の意味（都市性）を指摘。「通態性」の立場が表明されている。

私の風土学では、〈対話〉をコスモスの回復に結びつけたい。

II 対話の空間へ

コスモスの三つのレベルを〈対話の空間〉として考えることができる。

- ・ミクロコスモス：個の内なる〈私ー汝〉の対話に、第三者〈彼〉の声が加わる〈自己内対話〉。絶対者である〈彼〉（良心、神）の声に従うことで、個のふるまいにおのずから秩序が生じる。

- ・メゾコスモス：〈個〉は同時に、メゾコスモスの成員でもある。個と個の〈私ー汝〉関係（二人対話）に〈彼〉が介入する「三人対話」が、社会の常態。人間集団としての共同体は、ふつう集団全体にとっての〈神〉を共有することによって内に閉じられ、メゾコスモスとしての社会を成立させる。

- ・マクロコスモス：メゾコスモスは、家族から国家まで複合的・多層的に存在するが、メゾを超えるマクロ（地球大）の社会——「人類社会」（ベルクソン）——は、今日まで存在しないし、地球を超える宇宙空間は、いまだ「社会」となる可能性を有しない。人知を超える宇宙を秩序体とするためには、「人類社会」を成立させるロゴスが必要である。それが成立するための必要条件は、個々のメゾコスモスを拡張するだけでは生まれない「間風土的世界」のロゴスである。